

総括討論

◎千葉 靖久（久慈工業高校分会）

高教組情報第2号には山口県の校舎制実施校の様子が詳しく載っていた。大変参考になり、ありがたかった。昨年12月26日(土)、高校再編計画案が新聞報道された。久慈工と久慈東が統合となる内容だが、休日の新聞で第一報を知ったことに驚きと寂しさを感じた。教務で学検を担当していたが、中学3年生は出願校決定を控え冬休みに入ったばかり。本校ではない選択をするには「よい」タイミングだと感じた。

久慈工業高校は野田村にあり、2つの科をもつ。現在全校生徒は123人。1学年40人以上が続いていたが、今年度の入学者はついに40人を割ってしまった。再編計画案は想定されたことではあり、それに対して本校はどのような特色を残し地域にアピールしていくのかを検討していくことが大切であるが、それが最も困難なタイミングの発表であったといえる。先生方は厳しくも温かく指導をしている。生徒たちを工業生として育てあげてきた。就職が充実している。久慈工に進んでよかったと言ってもらえている自負がある。

1学級40人の基準があり、これは「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」によるものである。が、40人学級、学年4～6学級という基準は進学校から専門高校までのオールマイティな数字なのか。教員配置のためには必要な基準であるが、地域の生徒、保護者にとってはどうか。県内のすべての高校が、地域のニーズを満たし良い学校だと評価してもらえることが大切である。そのためには、統合ありきではなく高校における少人数学級の配置の必要性を根拠を挙げて訴えていくことが大事である。

